

第一章 読みやすく

イ、句読点、力ギかつこ、漢字

こういう言葉遊びがあります。

うらにわにはにわにわにはにわにわとりがいる

「わ」も「は」も『わ wa』と発音しますから、

Ura Niwa Niwa Niwa Niwa Niwa Niwatori Ga Iru
ウラニワニワニワニワニワニワニワトリガ入る

となり、もつと意味が取りにくくなります。この文に「、」を打ち、漢字にできるところは漢字に直すと、大変分かりやすい文になります。

裏庭には一羽、庭には二羽、鶏がいる。

文章を書くという事は、日記などを除いては、全て人に読んでもらうために書くということです。ですから、人が読んで読みやすくなれば、文章は失格です。

文章を読みやすくするためには、適当なところに「、」「。」を打ち、漢字で書けるところは漢字にします。

問題一、次の文章に読点（、）句点（。）を打ち、漢字にできるところは漢字にし、読みやすい形に直しましょう。必要であればカギかっこ（〔 〕）なども使いましょう。

1、きのうふつたあめのえいきようでちかくをながれるかわがはんらん
しそうになりぼくはとてもこわいおもいをした

2、そこにははがきがいちまいおいてありわたしははにはそのはがきでがつしゅくのようすをしらせようとおもいました

3、せんねんのこときょうとそこにはむかしからいまにつたえられたぶんかざいがかずおおくあるわたしたちはそれらをこうせいにつたえるぎむをおつてている

4、ぼくのがつこうのなかにわにはじゅれいさんびやくねんのおおきなぐすのきがある

5、わたしがきのうがつこうのかえりにちかくのこうえんにたちよるとそこではだんしたちがさつかーのしあいにむちゅうになつていました

口、文の区切り

例、ぼくは昨日学校の遠足でひょうたん山へ登つたら、山の頂上へついで、ぼくの住んでる町が見渡す事ができて、学校の時計台が見え、そしたらお昼になつたからお弁当を食べると、お腹が一杯になつたけれど、よしおくんにさそわれたから、林で虫取りをしたら、カブト虫を見つける事ができたので、ぼくはとてもうれしかった。

ううむ。これは一つの文ですが、長々として、言いたい事が何なのか分かりにくい文ですね。

文章を書きなれるまでは、どこまでを一文とするか、どこに句点(。)を打つか、判断にこまるものです。

そこでみなさんは、まずは「一つの内容で一つの文」「一つの内容で句点(。)を打つ」という事を心がけましょう。文章を書く事になれてくると、二つ以上の内容を、接続詞などをうまくつかって一文にまとめることができるようになります。

先の例を見て、「ぼく」のした事、「ぼく」の考えた事を、ここで述べられている順に整理してみましょう。

- ①、遠足でひょうたん山に登つた。
- ②、山の頂上についた。
- ③、町が見渡す事ができた。
- ④、学校の時計台が見えた。
- ⑤、(お昼になつたので)お弁当を食べた。
- ⑥、お腹がいっぱいになつた。
- ⑦、(よしおくんにさそわれて)林の中で虫取りをした。
- ⑧、カブト虫を見つける事ができた。
- ⑨、とてもうれしかつた。

となりますね。

問題二、次の各文を読んで、「ぼく（わたし）」のした事、「ぼく（わ

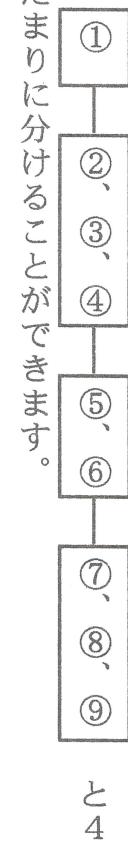
たし）」の考えた事を、述べられている順に整理しましょう。

(解答欄①～⑩は、全て使うとは限りません)

1、ぼくは朝おきたら歯をみがいておとうさんのために新聞をとつてみると、おかあさんの作ってくれたたまごやきとおみそしるを食べて、それから服をきがえて七時半に家を出て集団登校の待ち合わせ場所に行きました。

- ①、()
②、()
③、()
④、()
- ⑤、()
⑥、()
⑦、()
⑧、()
⑨、()
⑩、()
- 2、わたしはお昼休みの時間は、給食を食べた後中西さんと三浦さんと一緒に中庭の花だんの朝顔に水をやつて、うさぎ小屋をそうじして、時間があれば運動場のすみの鉄ぼうで逆上がりの練習をします。

- 7、（よしおくんにさそわれて）林の中で虫取りをした。
 8、カブト虫を見つける事ができた。
 9、とてもうれしかった。

この文章は

 ①
 ②、③、④
 ⑤、⑥
 ⑦、⑧、⑨
 と4
 つの意味のかたまりに分けることができます。

問題三、「問題二」で一文ずつに分けたものを、意味のかたまりごとにまとめなさい。（□の中に、文の番号を書き入れなさい。）

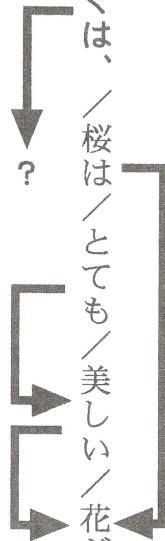
先の例の
 ◆
 ◆
 ◆
 ◆
 5、
 4、
 3、
 2、
 1、
 の部分は、
 a、山の頂上につきました。そこから町を見渡す事ができました。学校の時計台まで見えました。

口、足りない言葉

例題、ぼくは、桜はとても美しい花だ。

これはおかしな文ですね。何がおかしいか分かりますか。

ぼくは、／桜は／とても／美しい／花だ。



修飾・被修飾の図を書いてみると、良く分かります。（この図の意味については、弊社刊「サイバー国語読解の特訓シリーズ一『文の組み立て特訓』」を参照して下さい。）

この例文では、「ぼくは」がかかる先の言葉がありません。もし「花だ」がかかる先の言葉だとすると、「ぼくは→花だ」となり、意味が通じなくなります。

この文を正しく書き直すためには、「ぼくは→何?」「ぼくは→どうした?」など、「ぼくは」を受ける言葉が必要となります。

修正例一、ぼくは、桜はとても美しい花だとと思う。

二、ぼくは、桜はとても美しい花だと知った。

ぼくは、／桜は／とても／美しい／花だと／思う。



「ぼくは」を受ける言葉が出来ましたので、正しい文になりました。

(この場合、「と思う」「と知った」に当る部分には、「ぼくは」を受ける言葉であればどんな言葉を書き入れても構いません。意味の通じるよう)に自分で考えてみましょう。)

問題六、次の各文のまちがいを正して書き直しなさい。」とばがうまくつながるように、少し書きかえてもかまいません。

1、私は、ゆり子さんじやくわんは仲がいい。

--	--	--	--

2、ぼくさーの本を読んで、おおかみと戦つた少年は勇敢ゆうかんだった。

--	--	--	--

3、三郎君は、ぼくと弟がけんかをしていると、それを見たけんじ君が止めに入つた。

--	--	--	--

4、私は、お母さんの作ったケーキはとてもおいしい。

--	--	--	--

5、ぼくは、突然家にやつてきただじゆせうと戦つたお父さんがかつこよぐ、たのもしかつた。

--	--	--	--